

「バス・配車 アプリで便利」

石川 幸

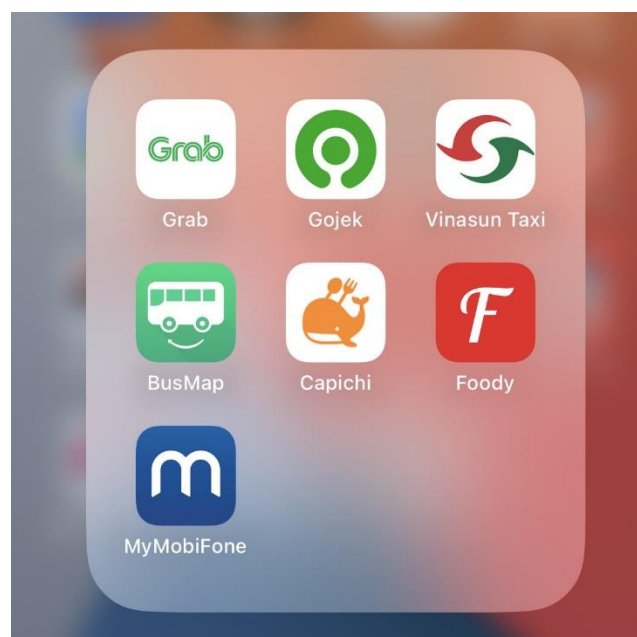
日本における在留外国人の第2位はベトナム人となっています。そんな関係が深いベトナムへの日本人の渡航が、2023年8月15日から、ビザなしで最大45日間まで拡大しました。ベトナムに入国する時に必要なのは、新型コロナウイルス禍前と同じで、パスポートと帰りのチケットだけです。

今回は一例として、現地の配車とバスの携帯アプリをご紹介します。公共交通機関としての鉄道・地下鉄は日本と大きく異なり、従来、現地日本人の主な移動はタクシー（ハイヤー）だけでした。

① 配車アプリ

「ライドシェア」と呼ばれる相乗りアプリです。ベトナム国内大手で有名なのは、Grab（グラブ）とGojek（ゴジェック）です。いずれも、大手タクシーよりも安い料金体系で、表示金額（一定金額）で目的地まで乗車できます。

目的地の住所をGoogle Mapからアプリへコピー＆ペーストすれば、ベトナム語を話さなくても到着できます。なお、主な支払い方法は現金となるので、（これはベトナムでの買い物に共通しますが）お釣りが不要な少額紙幣を持っておくと支払もスムーズです。



【スマートフォンの画面に並ぶアイコン】

※左上がグラブ、その右がゴジェック、左列上から2番目が公共バス

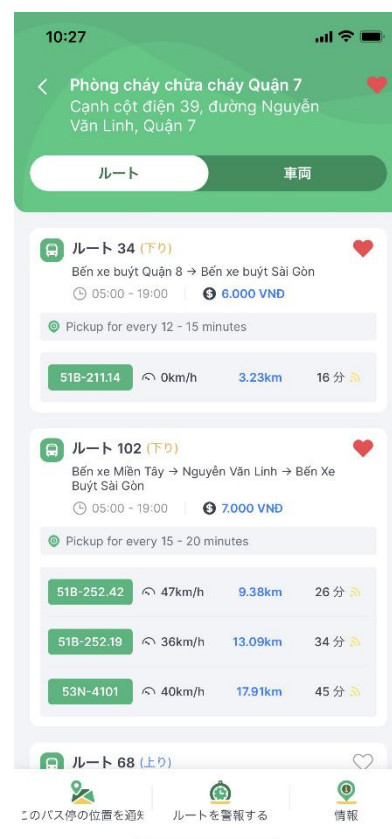
② 公共バスアプリ

バスの停留所間の移動や、時間に余裕がある時に有用です。最大の特徴は、6,000ドン（約36.5円）、または、7,000ドン（約42.5円）と極めて安いことです。

注意点として、乗り降りの際に前後のバイクに気を付けること、それから降りる停留所の前から、降りる意思を運転手たちに伝えておくことも大事です。

また全ての停留所ではありませんが、アプリで停留場での待ち時間がおおむね反映されるように改善され、便利になっています。

以上のように、タクシーに加え、スマートフォンを使用して配車アプリやバスといった移動手段を使い分けることが可能となりました。その他にもいろいろと改善・変化・進展は続いており、この15年間で日本人から見た住環境は便利になってきています。



【公共バスアプリ画面】

こちらの記事は、中国新聞 SELECT

「最前線ビジネスサポーター発」にも一部掲載されました。